

マルセイニュース 6月号

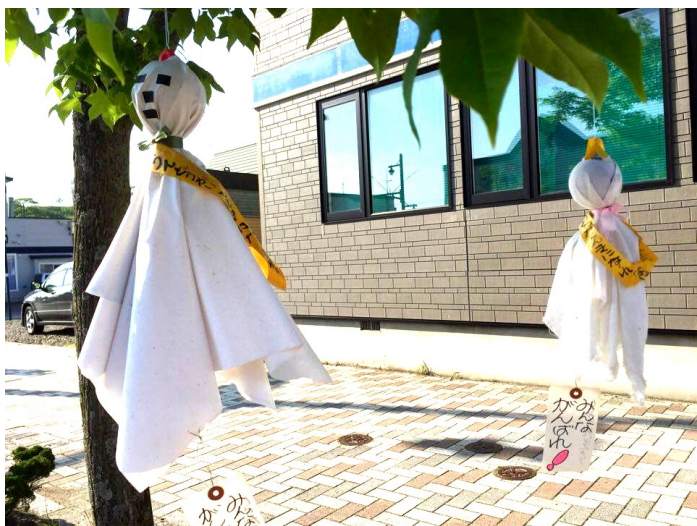
発行日 2016/6/22

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL0146-22-5123



家族や地域の人に見守られながら

子どもたちが輝いた大運動会！



バーン！6月11日（土）、朝6時に打ち上げられたのは、浦河小学校の大運動会開催を知らせる合図の花火でした。今年は好天に恵まれて良かったですね。頑張る子どもたちのためにと、お父さんやお母さんも、お弁当作りや場所取りにと早朝から忙しかったことでしょう。地域の方もテルテル坊主を作って見守っていましたよ^^



『うらたびVol.3』は 6/25(土)からスタート、7/31(日)まで！

「ルピナスの丘」の風景



「ルピナスの丘」が花の見頃を迎えています。この土地の持ち主・澤谷さんご夫妻と有志の方々の尽力により手入れが続けられてきました。ここから眺める風景とお花に魅せられた人は年を追うごとに増え、町外からも訪れる人がいる人気スポットです。

いただいた3株のルピナスの花をいつか花畑になればいいな・と草やぶの中に植えた澤谷さん。でも、1週間後に盗掘されてしまいました。残念に思い、「ルピナスの花を持つて行った方は、大事に育ててくださいね」と匿名で新聞に投書したことがありました。

平成11年。当時取り組まれている町民ミュージカル『海の見える丘』という原案が上がつてきた時に、澤谷さんのこの実話が脚本に織り込まれて『ルピナスの丘』という名で『ルピナスの丘』(平成12年8月上演)が誕生。ダン50台分の土を入れてなだらかに造成し、出演した子供たちがルピナスを植えるなど、ミュージカルの制作と同時進行で「ルピナスの丘」作りが始まったそうです。

今年の「うらたび」は、このルピナスの丘で一日限りの小さなイベントからスタート。楽しそうです♪



ルピナスの丘に足を運ぶと、手入れをしている澤谷さんの姿を発見。ほとんど毎日手入れに来ているという奥様は、お花を見に来た方々と楽しそうにお話中でした^^

1、花の苗をプレゼントしてくれる人、手入れをお手伝いして下さる人など、たくさんの人の応援を得ながら「ルピナスの丘」が育てられています。



注意信号は → 着火しづらい、煙が出る、臭いがする、変な音がするなど ストーブの分解整備の必要はありませんか？ サインを見逃さずに整備しておきましょう！



**分解整備で
燃費をアップさせましょう！**

お宅のストーブは、このような不具合で思い当たるようなことはありませんか？チェックしてみてください。

- モーター異音・回転不良
- ファンベアリング不良
- 燃料パイプのつまり
- 着火不良
- 燃焼不良・白煙・黄色い炎
- 消火不良・臭いの発生
- ガラスのくもり・ヒビ
- 火力調整不良
- 床暖房の不良
- 不凍液の汚れ・にじみ・漏れ

他にもストーブのトラブル・故障・不良・異常には次のように色々あります。

この冬、燃えが悪いと感じながら使っていたストーブならば、次の冬が来る前に整備することをおすすめします。
ベストの状態を保つには3〜4年に一度の分解整備をお勧めしています。でも、「燃えが悪い」と感じたときは、分解整備が必要なサインでしょう。整備後には燃費もアップして、灯油代の節約につながります。分解整備をご検討下さい。



困った時に力になってくれるエイジくん。ありがとう！

今年も分解整備に必要な“サンド・ブラスターボックス”も新調。格安品を若者みんなど組み立てました。夏季はストーブの分解整備、灯油タンクの清掃などメンテナンス業務に取り組みます！

ところで、長期間使用するストーブの内部は、どのお家のストーブでもホコリがいつぱい入り込んでいます。ペットのいるご家庭は、特に注意が必要です。ペットの毛がホコリと一緒に送風ファンに絡みついてしまい、燃焼に必要な風を送ることができない状態になります。分解整備でホコリを取り除いてスムーズな送風を取り戻し、燃焼を助けてみましょう。



機械いじりは好きな方で、修理も頑張っています！

★分解整備ご予約受付開始！詳しくはお気軽にご相談下さい！ TEL 22-5123

短い夏季シーズンだからこそ

■ 仕事の他にも楽しい時間！

事務所修繕工事も終了～！

■ トイレも新しくなりました

良く働き、よく遊ぶ。
（これに加えて、女性たちは、よく食べる！）大切な事です。ね。とにかく仲良しのマルセイの若者たちは、釣りに登山にと、休日にも忙しいタイムスケジュールを過ごしているようです。「マルセイ釣りクラブ」に所属しているマックスですが、キョウヘイ師匠の「一緒に行きましょう！すぐに痩せますよ！」という誘いはきっぱりとお断り。だって、それだけキツイってことですから。その証拠に、キョウヘイ師匠は3キロ、エイジ先輩は6キロは痩せたそう。ねえ、それよりもそろそろ赤防へ海釣りに行こうよ♪

コーキングの効果があつたかな？事務所の雨漏りが止まりました。これでひと安心。もうしばらくは、バケツや大判のバスタオルを用意しなくても大丈夫そうです。
座るたびにグラグラして不安だったトイレも、組長の陣頭指揮のもとで無事に終了。もしかすると、次の便器は彼女の好きなピンク色かとドキドキ？いいえ、便器も床のクッションフロアーも落ちついたノーマルな色調でホツとしましたね。
さて、次は木柵のペンキ塗りと、どんどん伸びる草刈りでしょうか。ね、組長♪





最近マルセイで見かける若者は、誰かな？ 今はまだアルバイトの、“ケイスケくん”です！

「美女かと思ったらよく見るとイケメンさんでしたね〜。先月号のマルセイニュースの“ガスでクッキング”に登場していた料理人は誰ですか？」とお客様からの声が届きました。彼は、キョウちゃんの弟のケイスケくんです！4月末からマルセイで働いています。まずは軽トラックやリフト車など各種車輛の運転に慣れることを始め、片付け仕事や草取りなど、様々な仕事の経験を積んでいる毎日です。

今回、縁あってマルセイで働くことを決めた仲良し兄弟の二人と共に、これからはより一層、地域のお客様から信頼され、必要とされる仕事ができる会社を目標に頑張ります。これからも引き続き、みなさまの応援をお願い申し上げます。

働く仲間の平均年齢が 一段と若くなりました！

現在はアルバイトとして働いている氣田圭佑くん。24歳です。当社規定の勤務日数を経た後は、兄の恭平くんと一緒に正社員としてマルセイで働きたいと頑張っています。

このところ、自分の子どもと同年代の若者たちを、一緒に働く仲間として迎えているマルセイです。若者が希望の持てる会社でありたいと、これから先の会社経営に、より責任を感じている最近の社長です。



料理をしたり、タンクローリーに同乗したり、ストーブの設置に同行したり、草取りに汗を流したり…。目まぐるしくも、みんなと楽しく働いています！

“ぱわふるの花壇”は花盛り



お花好きのみなさん、今年も楽しみな季節が始まっています。マルセイの“ぱわふるの花壇”も、春の花から夏花へと移行中です。年々大きくなるギボウシの横には、色あざやかなルピナスの花は今が見頃、今年もきれいに咲いてくれましたね。

どんなに仕事も忙しくても、水やりや花の手入れを怠らないのがぱわふるさん、さすがです。今年のフラワーバスケットもきれい！会社をいつもきれいに彩ってくれて、ありがとうございます♪



「はい！植えてね」と、訪問した先のお客様・Sさんが社長に持たせてくれたのは、なんとプロットリーとサンチエの苗でした。皆さん、読んでくれているのですね、ありがとうございます！

せっかくだから苗を枯らしては大変と、とりあえず急いで仮植したマックスの畑を見たぱわふるが一言。「これだもの：。いやいや、これは本当に仮植ですよ。ホント。多分、ホント！」



だって、今年の野菜畑はいっけなく種類も豊富にと、やる気いっぱいマックスです♪ 今後の野菜畑を、どうぞ、おたのしみ～！

こちらは…だ、大丈夫かな？
あやしい…“マックスの野菜畑”





中川さん、小笠原さん、観光協会会長の木田さん



「浦河観光協会」の事務所がオープン♪ うらかわの観光に新しい風が！

6月1日、大通り2丁目の国道沿いに、このたび独立した浦河観光協会の事務所がオープン！ 地域おこし協力隊としての任期を満了した中川貢さんと、着任して7か月余り観光振興担当として活動していた小笠原紗智さんの二人が職員として就任。今後の活躍が期待されています。

New
事業戦略部長として業務を担う中川さんの協力隊退任の際のあいさつから一部です。協力隊のときに企画した乗馬観光プログラムに参加した若者が、浦河に通い始めて一年。その間、多くの人とつながり、仕事も決まり、晴れて浦河町民となつて、この事務所ですぐの再会も果たしたそうです。新しくスタートした浦河観光協会を応援したいですね。

「よそ者目線で見ると、この地域はとても魅力的で誇れる資源があり、その地域資源を観光資源にすることで多くの人が浦河に来てくれるといいなと思つてます。観光って実はとても幅広い分野の職業が重なり支えあつて成り立っています。今後受け入れ体制作りや観光商品開発など、これまでみんなで進めてきたことを続けていくため、そして組織の法人化を含め、観光振興がスタートです。」

「インストリートに設けられた事務所にはすでに町内外からの来客も多く、新しい観光振興の拠点として動き始めました。7月には新しい事務局長も着任されます。3人のスタッフ全員が、他所から浦河に移住した職員ですね。」



事務所のオープンは、一緒に観光ワーキンググループとして学んでいる町内の若手建築グループの仲間が看板の制作を担当。町のメ



前日は広尾町で講演。この日も各町からたくさんの方々が参加されました。澤さんからの大切なメッセージを受け取ったセミナーでした。



公平なおもてなし・観光は平和へのパスポート 旅館「澤の屋」経営 澤 功さん講演会

開催 3月24日 様似町中央公民館 主催 「とんがりロード広域連携推進協議会」

少し前のこととなりますが、3月24日に様似町で開催された「外国人観光客おもてなしセミナー・英語が話せなくてもだいじょうぶ」という講演会に参加しました。お話されたのは外国人観光客で予約がいっぱいの旅館「澤の屋」を営まれている、澤功（さわ・いさお）さんです。

とてもすばらしいお話で、あつという間に講演終了になつてしまつたのですが、まだまだお話を聞いていたいと思つた講演会でした。もともとと修学旅行の団体客が主たる顧客だった澤の屋さんですが、時代の移り変わりとともに売上の減少が長年続いていました。それでも澤さんはなかなか従来の経営から抜け出せなかつたといいます。わたしも商売をしているので、澤さんの次のような思い出話に思わずニヤリとしてしまいました。

「欧米のひとたちは、目的地までの出会いや苦勞を旅の一部として楽しんでます。少々交通の便が悪くても気にしていません。」

「最初、谷中には何も無いと思つていました。でも違いました。良さを発見してそれを磨いていくことで、谷中のマチ全体に観光客が増えました。」

「多くの宿泊者は、わたしたちのホスピタリティ（おもてなし）を評価してくれているのだと思います。」

「わたしどもは、どこの国の人も受け入れます。どこの国の人も公平にお持てなします。」

●何もないのではなく
良さを発見して
それを磨いていくこと

昭和57年の夏、忘れもしない出来事が起きます。3日間連続で宿泊者がゼロだったのです。このときはじめて澤さんは、「外国人観光客向けの旅館にしないよ。」とアドバイスしてくれたいた新宿の同業者をたずね、その盛況ぶりに必死の思いで澤の屋の経営改革に取り組み始めたのだそうです。



「1年以上も前からそのアドバイスを聞いていたのに、どん底が見えるまで本気で考えませんでした。」という澤さんの言葉には、共感をおぼえました。人間誰しも従来を変えていくのは億劫なものですが、社長には命令する人がいませんからね。

「観光は平和へのパスポート」。そう思つてとり組んでいますという澤さんの言葉が心に残りました。

社長



実際の経営に活かすことができる実践的な体験ゲームです。一緒に学ぶ仲間を随時募集しています。

ゲームを通じて、会社経営を体験できます

第1回 マネージメント・ゲーム(MG)研修会

開催：5月28(土)・29(日)

会場：浦河町生涯学習センター

5月28・29日、第1回目のマネージメント・ゲーム(以下MG)研修会を開催しました。北海道MG研究会にご協力をお願いして、SB研の仲間とJA三石の方々を中心に参加者11名で1日半の時間、真剣に経営の勉強をしました。

原則すべて現金決済で、モタモタしているとおつという間に資金が底を尽きます。その間にも、商品盗難や倉庫火災、縁故採用で人件費アップなどのアクシデントに見舞われることもありま

全員、300万円の資本金を持ってスタート。人を雇い、工場をつくり、機械や材料を仕入れて商品を生産し市場に売ります。付加価値のある商品を作るか、広告を打つか、大量生産できる工場にするか、たくさん人を雇用するか、自分はどうな会社経営をするのか、色々試すことができます。

ゲーム上で
色々な経営の仕方を
試すことができます

MG(マネージメント・ゲーム)は一言で言うと「会社経営体験ゲーム」です。ゲームといえども、かなり実践さながらのものです。



ゲーム上の1年が終わったら、各自が自分の会社の決算書を作りますが、ここが最初は大変。でも、経理を学んだことのない人が経理の基礎を学ぶには、どんな本を読むよりも役に立ちます。

そうやって仕上げた決算書が赤字で資金も販売力も乏しいものだとしたら、その資金力でゲーム上の2年目を始めなければいけません。「会社にお金がない!」とにかく売らなければ!と必死になります。最初はイスに座ってゲームをしていた人でも、この頃には立ち上がって相場師さながらに「売ります!」と自然と声が上がります。たかがゲームと侮(あなど)るなかれです。

若い人も
楽しみながら
経営を学べるMG

MGの体験を現実の会社経営に活かした方で、もともと有名なのはソフトバンクの孫正義社長でしょう。無名時代の孫社長はMG研修に真剣に取り組んだとのこと、経営者をめざす若い人たちに「MGで100年分の経営体験をしなさい」とアドバイスしています。



「農家さんの経営指導に役立つ日が来るかも」と前向きに学ぶ若者たちでした。

「次もまた参加したいです!」と、今回初めてMG体験をしたJA三石の沢口くん(19才)は、4期目で倒産からのV字復活という経営手腕を発揮! 複数の人を雇用して、大胆な経営を試みていた最年少参加者の斉藤くん(18才)と二人、初めて取り組む決算書からも色々得たことがあったようです。「すごく勉強になりました。やってみて良かったです!」と楽しそうでした。

他にも「必死でした!」という感想がありました。が、わたしも久しぶりのMGに必死で頑張りました(笑)。

マネージメントゲーム研修会はこのあと2・3回の年内開催を予定しています。一緒に勉強してみたいという方はご連絡ください。社長

【主催者連絡先】

株式会社ユートライン

電話 22 5577

メール tmurashita@u-trine.jp



高知県 馬路村の取り組み

毎月、一回。子どもたちが自分で、つくる、お弁当の日。

高知県の馬路村は柚子の生産で知られています。馬路村農協の通販を利用して柚子ポン酢を買って以来、定期的にダイレクトメールが届けられます。いつも楽しく親しみやすいお便りですが、この春のお便りは封筒にデザインされていた情報が魅力的でした。

「日本で最も美しい村」連合に加盟している馬路村は、高知県35市町村の中、人口が2番目に少ない村です。村のホームページトップには、「私たちは、自らの村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であり続けることを目指します。」と明記されています。村民の自立意識が高い村と評されていますが、それは、子どもたちが小さい頃からこのようにして育まれているからでしょうか。みんなの作ってくるお弁当も、見てみたいと思いました。

「馬路村には、高校がありません。中学校を出ると、多くの子供たちは高校に行くため、親元を離れます。馬路小学校の5、6年生と馬路中学校では、毎月、1回だけ、子どもたちが自分でつくった、お弁当を持って登校します。」



色々なお弁当のイラストも楽しいです^^



『風になびかれて』 五木 寛之著 (1932～)

どうにもならなくなると、私はしばしば京成電車に乗って、青砥だったか立石だったかの製薬会社に血を売りに行って急場をしのいだ。ある日の午後、やはり売血を終えて上野から高田馬場まで出た。どうも学校まで歩く気がしない。思い切ってスクールバスに乗ることに決めた。それは大変なぜいたくのように思えた。だが、自分の血をガソリンに代えるだけだと考えると少し気が楽になった。(本文より)

最近読んだ本の中より…



五木寛之氏の初めてのエッセイ集です。昭和43年(1968年)刊行。4年後には45刷りとなつていきますから、当時ほんとうによく売れていたことがわかります。前年に直木賞を受賞し、直後から週刊誌に連載したエッセイ集です。著者はまだ35才でした。

**昭和の若者に
爆発的に読まれていた
五木作品**

デビューした昭和40年代初頭から20年ほどの期間、五木寛之という作家が若者にいかに読まれ、影響力があつたかを現在説明するのは、むしろ難しいです。仏教についてのエッセイを量産している人、というのが今の若い方の一般的なイメージでしょう。

でも若かりし日の五木寛之は違いました。北欧や東欧を旅し、ジャズや民族音楽を語り、古都金沢に精神科医である妻と暮らすという、若者のあこがれを掻き立てる文化的ヒーローの一人でした。わたしも、あこがれた青年のひとつでした。

大作『戒厳令の夜』までの初期の作品はほとんど読

んだと思います。忘れがたい小説もあるのですが、やはりエッセイが面白かったです。本作に続く『ゴキブリの歌』『地図のない旅』『深夜草子』、みんな読んでみんな面白かったと記憶するのですが、内容はみんな忘れてしまいました。ふと読み返してみたくなり、本書を40年振りくらいに手にとってみました。

冒頭の一文は、五木氏が学生時代に窮乏きわまつて血を売りに行くときの話です。そう、売血の話はいくつか読んだなと思ひ出しました。著者に『黄金時代』という小説があるのですが、これは売血をくり返していたころを書いた自伝的小説で、わたしはこの作品も好きでした。

「血を売る」なんて極貧時代の暗い話と思われるかもしれませんが、五木寛之の魅力というのはそれをユーモアと哀感を交えて描くところにあります。それが絶妙でした。

これは大学の恩師について書いた一節です。先生が授業の途中で一服する姿がなかなかいいのです。



「くしゃくしゃのタバコの袋から貴重品であるかのごとく一本を抜き出し、さらにそれを半分にしちぎつて火をつける。ちぎった半分はまた大事そうに袋に戻された。その戻す際の真剣な動作が私にはおもしろかった。先生はまだその時分、助教授にもなつておられなかったはずだし『静かなドン』の名訳も世に出てはいなかった。」

そして、血を売ったあとと力が出ず、初めてスクールバスに乗ったらバス代を節約して歩いていた大学の先生と目が合った場面です。

(先生の目は「やあ、バスに乗ってるな。いくら景気がいいんだね。よかつたなあ」といった優しい感じでもあり、「僕はいまちよいと景気が悪くてね。今日は歩きさ。風が冷たいねえ」と自嘲されているようにもあつた。私はどうにも身の置き所がなくて、もじもじし、もう血を売った日でもバスに乗るのはやめようと考えていた。寒い、風の強い日の午後だった。

今読むと、かなり地味な本です。毎回読者の興味を強いて引くような

「事件」が書かれているわけではありません。もつとも随筆というものが日常の些事を書き記すものでしょうから、事件は必要ないとも言えます。

**事件などなくとも
面白いエッセーは
やっぱり面白い!**

そして事件などなくとも面白いエッセイは面白い。エッセイの名手といわれる書き手がいて毎週週刊誌の発売日が待たれていた時代がたしかにあつたんだな、と思いました。

五木寛之氏のエッセイの魅力はどこにあるかというところ(含羞(がんしゅう)「だと思ふのですが、読み終わって解説を見ると「この本の魅力は、いかにも若者らしい」「ほにかみ」だろう」と、ちゃんと書かれています。ただわたしは敢えて、田舎者の「含羞(がんしゅう)」と云つてみたいのです。進学や就職で膨大な数の田舎の若者が東京をはじめとする大都会に押し寄せた時代に、五木寛之の書くものは共感を持って迎えられたのだと思います。

社長

7月は、梶井基次郎の『檸檬』

大学生生活で三島由紀夫の『金閣寺』を読んできて、学校に行くのも忘れて三島作品を読みふけていたという山形県出身のOさん(27才男性)は、浦河生活2年目の会社員。まずはOさんが三島と『金閣寺』について熱く語つてのスタート!

三島由紀夫は一冊も読んだことがない者ですが、面白かったです!またの機会によくお願いします!という参加者もいて、その場で来月の語る会も決定!次は、梶井基次郎と『檸檬』です!

六畳書房で、三島由紀夫と『金閣寺』の魅力について語る会が開催されました。昨年の「ワンデイブックカフェ・イン・地域デザインカフェ」でも、六畳書房で自分の好きな作家の本を持ち寄つて話すのも面白そう!と出た話を実現したはじめての本の集いでした。

**鼻持ちならない
金閣寺
三島由紀夫
を語る会**

日時 6月6日(月)19:00~
参加費 無料



六畳書房



ガスを使っておいしくクッキング

ちくわと長芋の豚肉巻き

とにかく肉が大好きで、中でもやっぱり豚バラ肉が最高！というばわふるが選んだ今月のクッキングメニュー♪ 野菜を入れたちくわを豚バラ肉で巻いてボリュームもアップ！絡めた甘だれがおいしく、家計にもやさしい一品で、お弁当にもOK！



●材料（2人前）

豚バラ薄切り肉 4枚
ちくわ 4本
長芋 1/2本
(アスパラも用意しました)
大葉 4枚
ごま油 大さじ1

A

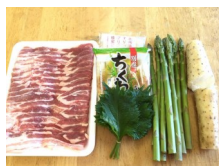
酒 大さじ1
はちみつ 大さじ1
しょうゆ 大さじ1
みりん 大さじ1



みんなが外仕事から帰って来るよ！お昼に間に合わせようと、バタバタと調理中のマックスを撮影している諏訪さんの姿。

●作り方 参照 クラシルフードのレシピ

1. 長芋をちくわに入るサイズに切り、ちくわの中に長芋を入れます。
2. 豚肉2枚を並べて広げ、大葉、ちくわの順にのせ、豚肉を巻きます。
3. フライパンを熱し、ごま油を加え、2を並べ入れて焼きます。
4. Aの合わせ調味料を加えて煮詰めたら完成！



外仕事から帰ってきたばわふるが開口一番に、「実は私、昨夜これを作ったんだよね〜」。そして、テーブルに並んだ料理を見て「あーっ、同じものとは思えないわ。繊細さがないし、ホント、おおざっぱ！しかも、どうして切ってないの？切り口が見えるように普通は斜めに切るでしょ？」と一喝。

やっぱり？そう思ったんだけど、豚バラだし、若者多いし、豪快に盛りつけた私…。ハハハ。慣れているのか、そんな手厳しいばわふるの一言にも笑っているみんな。男性たちはやさしいです〜^^ (いや、諦めてるだけなのかも…)

この日は嬉しいゲストを迎えた試食会でした。久しぶりにお会いしたのに、つい昨日会ったばかりのような感じでお迎えした諏訪弘さんです。文筆業が仕事の諏訪さんには、2014年発行のマルセイニュース114号と115号に寄稿していただきました。今回、撮ってもらった写真も使わせていただきましたが、さすがに違えますね〜。ありがとうございました！



フライパンひとつでできる



簡単クッキング♪

試食した人	今日の料理は★いくつ？(最高得点 ★3個)
フリーライター (千葉県在住) 諏訪さん (3. 0)	★★★ 家でも作って、妻の点数をかせぎたいです。 2014年3月に実施されたテレワークモニターとして浦河に滞在された諏訪さん。以降、大の浦河ファンとして何度も浦河へ足を運んでくれている方です^^
社長 (2. 7)	★★★ おいしいけど、先月の点数と比較して…
(株)ユートライン 村下社長 (3. 0)	★★★ アスパラより長芋の方が、好きですね〜
キョウちゃん (3. 0)	★★★ 自分も長芋の方が好きです。
けいすけ (3. 0)	★★★ 食感が、長芋の方がよかったです。
ばわふる (2. 5)	★★★ まずは、大葉が入っていたので減点！しかも、隠して盛り付けしてたけど、焦げてたし！
マックス (3. 0)	★★★ 自分に甘い私は★みつっ〜！簡単でおいしくて、ちくわでかさ増しもできるので、食べ盛りの子どもたちがいるご家庭にもおすすめです！

社長のちよつと長いコラム

『B・ディランの「風に吹かれて」』

今月の本のコーナーでは、五木寛之氏のエッセイ『風に吹かれて』をご紹介します。発表当時、わたしは小学生だったのですが、それでも時代の空気のようなものを感じ出されて懐かしさを覚えながら読みました。

ところで、『風に吹かれて』といえば真っ先にボブ・ディランの名曲を思い浮かべる方も多いかと思います。じつさいのところ五木さんの本が出たのは1968年で、ディランが「風に吹かれて」を歌ったのは62年のこと。世界中に知れ渡ったのが翌63年ですから、五木さんも当然それを知りつつ同じタイトルを付けたのでしょう。旅を愛する作家らしい表題だと思います。

一方、ボブ・ディランの歌の方は「旅」とはいささかも関係がありません。こんな内容です。

ただだけ道をあるいたら
一人前の男としてみとめられるのか？
いくつの海をとびこしたら 白いハトは
砂でやすらぐことができるのか？
何回弾丸の雨がふったなら
武器は永遠に禁止されるのか？
そのこたえは、友だちよ、風に舞っている
こたえは風に舞っている (片桐ユズル訳)



「風に吹かれて」を書いたときボブ・ディランはまだ21才でした。そんな若かったのかと、今さらながら驚かされます。

60年代のアメリカはベトナム戦争を拡大していき、国内では黒人たちによる差別撤廃運動が激しさを増していきまますが、この歌は反戦集会や公民権運動の場で必ず歌われる歌となっていました。

ピーター・ポール＆マリーが歌って大ヒットしたのですが、わたしはディラン本人よりもPP&Mの歌唱の方が好きでした。今でもときどき聴きますよ。本家ディランが歌うのを最初に聴いたときは、正直「なんじゃ、これ？」と思いました。ボソボソと歌う変な声と、うまくもない(たぶんヘタな)ギターとハーモニカだけの曲。この曲が収められているLPレコードを手に入れて、ワクワクしながら初めて聴いたときの、肩すかしを食らったようなガツカリ感を憶えています。今は好きですよ。ディランの初期の弾き語りには、全部好きです。

そのボブ・ディランもいまや75才ですが、精力的に活動を続けています。今年も日本にやつて来て、16回もライブを行いました。2年前の来日の時は、札幌にも来ています。そのときのディランの「過激さ」を噂では聞いていたのですが、先日その真偽を確かめることができました。えりも在住の大のディラン・ファンであるIさんから聞きました。「ええ、もう、そのとおりですよ。どの曲も元の演奏の影も形も残っていませんでした。『風に吹かれて』すらセット・リストを見て、あ、やっぱり歌ってたんだと確認できたほどでした。」サービスピッチャー。チケットを買ってくれたファンにだつて媚びない。「懐メロじゃなくて、今の俺の歌を聴きに来たんだろ。」ってディランの声が聞こえそうです。ただわたしのような疲れやすい人間には、懐メロのほうが有り難いです。

さのばわふる日記

食べすぎ



それにしても二十代の若者と五十代のおばちゃん。若者より食べられる、おばちゃん、これってどうですかね？



うちの会社のランチタイムは、みんなで外食に出かける事があります。恭ちゃんと私は食の好みが合うので、私が「これ、美味しいよ」と言うのとピッタリ恭ちゃん好みで、毎回そればかり食べます。

これがまた、凄い食べっぷりで、ライスは大盛り。私達が食べきれそうにない時は、恭ちゃんのお皿に移動させ、それも平らげてくれます。

お見事！

そして、汗っかきの私と恭ちゃん同じものを食べ「恭ちゃん、ジワジワきたね」と言うのと「はい、きています」とほぼ同時に発汗。ハンカチで汗をふきふき食べる二人の姿。

そして、新入り弟の圭佑。

「圭佑、何にする？これも美味しいよ。私はこれにする」

圭佑「じゃあ、同じものにします」と食べ始め、「どう？美味しいでしょ？」「はい。美味しいですね」と答える圭佑。

五十代のおばちゃんは、ペロリと平らげ満足。ふと圭佑を見ると箸が進まない様子。

「もしかして、もうお腹いっぱいなの？」と聞くと「はい、かなり」と無理して食べている姿。

兄弟だから、圭佑も食べるのだらうな〜と思っていたら圭佑は、食えない男だった。

それからは、食事のたびに「食えねえ男ですから、少なめにしてください。」と私に言われています。

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理

廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間(4月~9月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00 土曜3:00



編集 おはなし家(マックス)

発行部数 3500部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123